

自 平成29年4月 1日  
至 平成30年3月31日

## 平成29年度事業報告書

一般財団法人NHKサービスセンター



## 目 次

事業運営の概要	1
広報プロモーション業務	2
1 広報展開推進業務	2
2 NHK番組広報業務	3
3 NHK広報番組制作業務	3
4 NHK番組周知・広告業務	4
（1）多メディアを活用した広報展開業務	4
（2）外部団体との相互協力による広報展開業務	5
（3）写真業務	5
5 番組公開・展示・催物業務	5
（1）NHK公開番組、教育・ファミリーイベント等の運営実施業務	5
（2）展示・展博業務	6
（3）催物業務	6
6 放送教育広報業務	7
広報コンテンツ業務	7
7 NHK番組情報誌「ステラ」、「ラジオ深夜便」業務	7
8 コンテンツ業務	8
（1）語学コンテンツ業務	8
（2）音声コンテンツ業務	8
（3）コンテンツ制作・販売業務	9
（4）NHK番組記念品業務	9
視聴者サービス業務	10
9 NHKスタジオパーク業務	10
10 「NHKホール」「NHKふれあいホール」業務	11
11 NHK放送博物館業務	12
東京オリンピック・パラリンピックおよび4K・8K関連業務	12
12 東京オリンピック・パラリンピックおよび4K・8K関連業務	12
視聴者の意向吸収・理解促進業務	13
13 視聴者の意向吸収・理解促進業務	13
社会奉仕業務	14
コンプライアンス、働き方改革、その他	15



## 事業運営の概要

平成29年度は、「平成28～30年度 3か年経営計画」の2年目となる。各組織では、経営計画の基本方針、重点事項の実現に向け、具体的な目標を掲げ、NHKグループの広報・視聴者サービス事業についてさまざまな活動を展開してきた。

主な事業活動は次のとおりである。

広報プロモーション業務では、大河ドラマ「おんな城主 直虎」、大河ファンタジー「精霊の守り人」、連続テレビ小説「ひよっこ」、NHKスペシャルなど、魅力的で見応えのあるコンテンツを、幅広い視聴者にアピールする広報を展開した。

特に「ピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピック」やキャッチコピーを一新した「みつかるEテレ」など大型キャンペーン型プロモーションを強化し、放送・Web・イベントなど、多様なメディア・ツールを総合的に展開して効果的な広報を推進、国際放送や地域発ドラマ（地域支援）の広報展開にも力を入れた。また、SNSなどインターネットを活用したWeb広報を強化し、若年層など幅広い世代へのリーチ拡大を図った。

2020年東京オリンピック・パラリンピックおよび平成30年12月に本放送が始まる4K・8Kスーパーハイビジョンについては、1000日前イベントやパブリックビューイングの実施などを通して、機運を高める広報展開に取り組んだ。

広報コンテンツ業務では、番組情報誌「NHKウイークリーステラ」、月刊誌「ラジオ深夜便」合わせて578万6,000部のほか、「連続テレビ小説」のMOOKなどを編集・発行し、NHKのテレビ・ラジオ番組の広報と視聴者誘導に努めた。また、地域支援などとしてステラ誌面を活用した特別編集版を合わせて104万6,000部発行し、地域放送局や自治体等に提供した。

NHK番組と連動したCDは、「語学講座」を17講座91万8,040部、「名人寄席」や「名曲アルバム」などアーカイブス音源を活用したNHKCDを7タイトル発行したほか、ネットによるダウンロード配信も行い、視聴者利便の向上とともにNHKの副次収入に貢献した。

視聴者サービス業務では、財団が管理運営しているNHK施設を多くのお客様に訪れていただいた。このうち「NHKスタジオパーク」に59万4,016人、「NHKホール」に57万9,313人、「ふれあいホール」と併設のギャラリーに合わせて6万8,208人、それに「NHK放送博物館」に11万8,963人の入場・入館者があり、公開番組観覧や番組・技術のPR展示などリアルな体験で、NHKへの理解を深めるお手伝いをした。

視聴者の意向吸収・理解促進業務では、「ふれあいセンター（放送）」、「ハートプラザ」に電話・メール・手紙などであわせて99万2,000件のご意見・お問い合わせがあり、番組視聴を手助けしたり、今後の番組作りに役立てたほか、視聴者からの事件・事故等の通報を関係部署に連絡して、いち早いニュースに結び付けるなど、視聴者とNHKをつなぐ窓口の役割を果たした。

公益目的支出計画（年間4,750万円）の実施事業としては、月刊誌「ラジオ深夜便」の全国の老人福祉施設への寄贈や「NHK全国中学校放送コンテスト」「放送教育研究会全国大会」等の経費の一部を負担した。

コンプライアンス関連では、「改正個人情報保護法」の全面施行（5月30日）を受けて、個人情報保護関連規程の見直しや勉強会等を通して、財団が保有する個人情報データベースの管理水準の改善に取り組んだ。

内部監査室による定期監査では、本部5部署と2支局を対象に監査を実施したほか、NHK内部監査室による実地調査も行われ、情報セキュリティの不備などの指摘を受け、パソコンや外部記憶媒体の管理徹底を図った。

平成29年度を財団の「働き方改革」元年と位置付けて、4月に「働き方改革推進委員会」（委員長：理事長）を設置し、財団全体として長時間労働による健康障害防止や効率的でかつ多様な働き方ができる職場づくり等に取り組んだ。

## 広報プロモーション業務

### 1 広報展開推進業務

平成28年7月に、組織を横断した総合力を発揮し、広報・視聴者サービスを担うプロ集団の窓口機能を果たすことを目的に設置された広報展開推進室を中心に、下記の業務を実施した。

- 大河ドラマや連続テレビ小説では、外部団体との相互協力業務を推進したほか、ドラマの舞台となった地域放送局に広報資材の作成を提案するなど、視聴者サービスや番組広報に資する活動を行った。

また、2019年度前期連続テレビ小説「なつぞら」が、“朝ドラ”100作目となるにあたり、「朝ドラ100プロジェクト」を設置し、関連各部・支局の情報とノウハウを活用するなど、歴代朝ドラの番組パネル展の開発・運用等の広報展開策を検討している。

- NHKの国際放送が「NHKワールド JAPAN」に名称を改めスタートすることを周知するキャンペーンを、担当部と連携し展開。映像・グラフィックの制作と車内ビジョンや大型ビジョン、空港の広告媒体への掲出などを

企画・提案し、さまざまな形で広報展開を行った。

- 「地域発ドラマ」においては、各部・支局と連携して、各種広報資材の制作業務の受注を推進した。
- 「@nsc\_PR」を四半期ごとに発行し、財団が展開する多彩な業務の一端をNHKグループに広報した。また、広報業務等の最新情報を収集し、共有化を図るため、「広報展開推進室通信」を随時発信した。
- 組織横断的に編成した「広報展開推進チーム会」が企画立案した体験型アトラクション「変身！バーチャル・スタジオ」をスタジオパークに設置した。

## 2 NHK番組広報業務

(NHK番組の新聞・雑誌等のメディアへの広報業務)

- NHKが放送する多彩で質の高いコンテンツの情報を、特に働き盛り世代に届けるために、紙媒体・ネットメディア双方に取り上げられやすいような広報展開を進めた。番組制作発表やお知らせを47回、ロケ・スタジオ取材会を24回、試写会や出演者の記者会見を32回実施するなど、メディアに向けて積極的な情報発信を行った。
- 大河ドラマ「おんな城主 直虎」や大河ファンタジー「精霊の守り人」では、放送内容に合わせたさまざまな切り口で情報を発信し、多くの視聴者の興味を持続するように工夫を凝らした。番組の節目や、視聴者の注目度が高い俳優の登場や卒業に合わせて合同取材会を開催し、長期間にわたってさまざまな媒体から番組の情報が発信されるように工夫した。
- Eテレでは、高専ロボコン30年やおじゃる丸20年等の関連番組や、複数の番組のコラボレーション企画など、スペシャル感のある番組を中心にチャンネルイメージをアピールし、視聴者に波の魅力を余すところなく伝えた。
- 衛星波では、BSプレミアムの長時間大型企画「ザ・プレミアム」「スーパープレミアム」等、本物志向の視聴者のニーズに応える番組を中心に、ブランドイメージを確立させる広報展開に力を入れた。
- ウイークリー「NHKおすすめ番組」「FMウイークリー」を平成29年度第4号から平成30年度第3号まで発行したほか、「年末年始特集号」等の特集番組紹介冊子を年3回編集発行した。

## 3 NHK広報番組制作業務

(NHKの番組内における広報番組の制作業務)

- 総合テレビでは、「ごごナマ (番宣コーナー)」(月～木曜)、「オシばん」(月～金曜)、「BSコンシェルジュ」(金曜)、「どーも、NHK」(日曜)、「まと

め1分スポット」(土・日曜)等の広報番組やスポットを制作した。「ごごナマ」、「まとめ1分スポット」は新番組、「オシばん」は「もうすぐ9時プレマップ」をタイトル変更。各番組とも、番組周知が視聴者により届く演出に努めた。

- BSでは、BS1・BSプレミアムの多岐にわたるジャンルの魅力的な番組を紹介し、その見どころを伝えるBSスポットやBSクラッチ等を制作した。BS波でのスポットや広報番組の年間の制作本数は計2,100本余りに上った。
- ラジオでは、地上波の大型番組やドラマ番組等の制作の舞台裏を紹介しながら番組をPRする「とっておきテレビ」(月1回)やBSプレミアムの地域発ドラマをPRする「ラジオ深夜便・地域応援特集」(年5回)を制作した。
- 大型のプロモーションでは、「ピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピック」「みつかるEテレ」など各種キャンペーン型プロモーションを展開した。放送のほかWeb、交通媒体、イベントなど多様なメディアを駆使した多面的なPR活動を広報番組制作部、広報企画部、デジタル広報部、事業広報部等が連携して行い、広報番組制作部はその窓口業務を担った。
- 大阪支局では745本のスポットを制作した。

#### 4 NHK番組周知・広告業務

(印刷物、電子媒体等によるNHK番組の周知業務)

(1) 多メディアを活用した広報展開業務

- 「BSガイド」の編集制作や「ランスマ」「チャリダー」「TOKYOディーアップ」等、BS番組PR用印刷物を作成した。
- Webを活用した番組周知では、広報サイト「NHK\_PR」により多様な番組情報を伝えている。また大河ドラマや連続テレビ小説では、HPに加えてFacebook、Twitter、Instagram、LINE等のSNSを活用して、幅広く視聴者へのリーチを図っている。  
今年度からNHK公式Facebookの制作も受託した。
- 地域放送局発ドラマでは、北九州放送局制作の「GO!GO!フィルムタウン」やさいたま放送局制作の「越谷サイコー」で、各種広報印刷物を作成するとともに、番組HPを制作した。
- 新大学生・新社会人をターゲットにフレッシュヤーズキャンペーン「案外、わるないNHK。」を展開した。また、広報印刷物を制作したほか、Web動画の制作やWeb広告、屋外広告を実施、受信料に対する理解と受信契約に結び付けた。
- 国際放送の周知に向けて、ガイドブック、チラシ等各種印刷物を作成した



ほか、成田、羽田など各地の国際空港で広報展開を実施した。

- ピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピック放送の周知に向けて、ポスター、観戦ガイド等各種印刷物を作成し、交通広告展開を実施した。

さらに、パラリンピックに関してはT w i t t e rによる広告を実施し、番組とHPの認知度の向上を図った。

## (2) 外部団体との相互協力による広報展開業務

- 大河ドラマ「おんな城主 直虎」「西郷どん」、連続テレビ小説「半分、青い。」の舞台地の自治体や公共交通機関との相互協力によりポスター、冊子、ラッピングトレイン等の広報展開を実施した。

## (3) 写真業務

- ポスター、パンフレットなど番組周知印刷物、「NHKウイークリー ステラ」、番組広報写真等の撮影のほか、NHK出版のドラマガイド等の撮影やNHK交響楽団定期公演の撮影業務も継続して実施した。

## 5 NHK番組公開・展示・催物業務

### (1) NHK公開番組、教育・ファミリーイベント等の運営実施業務

- NHKホールでは、定時公開番組38本(104,986人)、特集・企画番組39本(123,039人)の公開業務を実施した。
- NHKみんなの広場ふれあいホールでは、定時公開番組83本(18,843人)、特集・企画番組22本(4,825人)のほか、8Kパブリックビューイング等のイベントを74本(17,007人)実施した。
- 都内の派遣番組等の公開は、12本(10,272人)実施したほか、東京落語会を12回実施(6,533人)した。
- 関東甲信越各放送局における公開番組等の実施・運營業務では、南3局で5本(拡大支援4本)、水戸局と長野局で各1本の拡大支援を行った。
- 「NHKコミュニティスクール in 豊海」を12月9日、中央区立豊海小学校と同幼稚園で実施。ファミリー層を主な対象に、多彩な公開番組やイベントを運営・実施(2,660人)した。
- 「WANIMA 18祭(フェス)」を11月12日に、日本工学院片柳アリーナで実施。ロックバンドWANIMAと18歳世代の若者971人との一体となった熱いステージを運営した。
- 番組「天才てれびくんYOU」の展示パッケージ型イベントを全国6会場で新規実施。また、同番組木曜日のIP中継と連動させて、全国17か所の電器店で、番組パネル展やフォトサービス、茶の間戦士抽選会等を実施した。

- ファミリー向けイベントは、「おかあさんといっしょファミリーコンサート」（チャリティー）を5月と11月にNHKホールで各8公演（計50,895人）実施したほか、「おかあさんといっしょ宅配便」（前期ポコポッテイト小劇場、後期ガラピコぷ〜小劇場）を全国51会場（47,541人）で実施。また、「ワンワンとあそぼうショー」（93回、218,680人）や「どーもくんショー」等を全国110会場（232,741人）で実施した。
- 「トライBS〜記念フォトゲット〜」をNHK主・共催のスポーツイベントや会館公開イベント等の14会場で実施し、8,856人にBS番組の広報・普及を図った。

## （2）展示・展博業務

- 大河ドラマ「おんな城主 直虎」（31会場）や連続テレビ小説「ひよっこ」（9会場）の番組紹介パネルや衣装、小道具類等の展示を全国で実施。その内、4会場でトークショーを実施した。
- 「渋谷DE どーも」、「NHK文化祭」、「みつかるEテレまつり」などのイベントを企画・運営した。
- 「第22回NHKハート展」を全国10会場（入場者42,791人）で、「NHK介護百人一首2017」を全国11会場（入場者16,919人）で巡回展示した。
- スタジオパークでは、大河ドラマ「おんな城主 直虎」、「西郷どん」、連続テレビ小説「ひよっこ」、「わろてんか」の番組展をはじめ、「体感！バーチャル映像」、「放送開始90年 大相撲展」、「冬のスタパ・スポーツ祭り」などの企画展を実施した。
- 営業支援ツール「NHK どーもくんPARK」を新規に制作、運営・実施。全国5会場で開催して、14,531人の参加者を得た。
- NHKの国際放送「NHKワールドTV」の展示ブースを成田空港に制作、設置・運営して、訪日外国人に広報した。
- 「MINIATURE LIFE展 ～田中達也 見立ての世界～」(4会場)、「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展」(4会場)、「草乃しずか展」(2会場)等、多彩な12企画を全国21会場で実施した。

## （3）催物業務

- 宝くじ文化公演、宝くじふるさとワクワク劇場  
自治総合センターが、社会貢献事業として地方自治体と共催で実施する文化事業の制作業務を継続受託。オーケストラを中心としたクラシック演奏会で構成する「宝くじ文化公演」、お笑い芸人による演芸と地元の方々も参加

するコメディで構成する「宝くじふるさとワクワク劇場」を全国22会場で実施した。

## 6 放送教育広報業務

- 「NHK for School×アクティブ・ラーニング実践ワークショップ」を全国8会場で開催し、教員383人が参加した。
- 「NHK for School 基礎セミナー」を全国36会場で開催し、教員986人、大学生178人が受講した。
- ウェブサイト「NHK for School」では、学校向け教育番組やイベントに関する記事等のブログを執筆・更新するとともに、教員向けデジタルコンテンツ「授業力アップ」を公開した。
- 全国放送教育研究会連盟の事務局として全国8ブロックの研究大会や全国大会の運営に関わった。仙台で開催された全国大会には2,500人の教員が参加。地元での実践活動や、その成果を大会で発表するための支援を行った。全国放送教育研究会連盟の最新の活動状況については、ホームページ「放送教育ネットワーク」で紹介した。
- 「NHK杯全国中学校・高校放送コンテスト」の事務局を運営。都道府県大会の参加者は中学校で680校4,445人、高校で1,677校1万6,293人となった。
- ICT教育を推進する人材を育てる「ファシリテーター養成講座」の運営を担当。千代田放送会館で3回開催し、20人の受講生が履修した。

## 広報コンテンツ業務

### 7 NHK番組情報誌「ステラ」業務、「ラジオ深夜便」業務

- 「NHKウイークリーステラ」50号(4,178,000部)、月刊誌「ラジオ深夜便」12号(1,608,000部)を編集、発行した。  
ステラMOOK「ひよっこメモリアルブック」「わろてんかメモリアルブック」「ラジオ深夜便ファンブック2018」を編集、発行した。
- 「ステラ」では「ピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピック」の記事を開催期間7週にわたり掲載した。また、大会終了後に競技写真中心の「メモリアル特集」も企画した。
- 大河ドラマ「おんな城主 直虎」については年間12回の特集を組み、立体的な楽しみ方を読者に提供、最終号では「メモリアルフォトアルバム」特集を企画した。

また平成29年度は「REAL FACE@NHK」企画としてアイドルグループを7回取り上げた結果、若年層にも認知され購読層を広げた。また11月の「アナウンサー名鑑」(4週連続)に続き、今年度から「気象キャスター名鑑(全国版)」を特集し、読者の高い評価を得た。

- 「ラジオ深夜便」ではタイムリーかつ話題性に富んだ「佐藤愛子に聞く!」や「美空ひばり幻のインタビュー」、5年にわたって連載した「土井善晴の家庭料理を楽しむ」最終回の特集が好評を博した。
- 広告・特別編集部では「ステラ」特別編集版を3自治体(450,000部)、7企業(458,000部)、地域放送局等11局(138,000部)へ提供した。

## 8 広報コンテンツ業務

### (1) 語学コンテンツ業務

- NHK語学講座の「音声テキストCD」(17講座\*)を、利用者の学習効果の向上を図るため、番組と連動した内容で毎月発行した。

CD付テキスト「基礎英語1・2・3」の発行数は481,900部(28年度比93.1% ▲35,600部)であった。

単体CDの発行数は436,140部(28年度比83.2% ▲120,640部)と28年度から大きく部数を減らした。これは新たにNHK出版が開始した「音声ダウンロードチケット」の影響によるものである。

\*17講座の内訳(平成29年5月号~平成30年3月号)

英語:「基礎英語1・2・3」、「ラジオ英会話」、「英会話タイムトライアル」「入門ビジネス英語」「実践ビジネス英語」「高校生からはじめる『現代英語』(以上ラジオ第2)「おとなの基礎英語」(Eテレ)

その他の言語:「まいにちドイツ語」「まいにちフランス語」「まいにち中国語」「おもてなしの中国語」「まいにちスペイン語」「まいにちロシア語」「まいにちハンゲル講座」「まいにちイタリア語」(以上ラジオ第2)

- ラジオ「アラビア語講座」「ポルトガル語入門」のCDを発行した。
- NHK出版「音声ダウンロードチケット」「語学プレーヤー」に19講座のCD音源を提供した。
- 放送事業者(USEN)へラジオ語学番組「基礎英語」等、8講座を提供した。

### (2) 音声コンテンツ業務

- NHKアーカイブス音源を活用し、NHKCDを発行した。
  - ・「NHK昭和名人寄席 壺、式、参」(各CD5枚組)

- ・「立川談志 落語集成 1、2」(各CD 5枚組)
- ・「NHK名曲アルバム～優雅な一日～」(CD 6枚組)
- ・「NHKラジオ深夜便 ピアノが奏でる七十二候」
- ・「N響ライヴシリーズ 2018」9タイトル
- ・「最新版NHK大河ドラマ テーマ音楽全集 1963-2017」
- ・「高橋たか子 ラジオドラマ脚本集 付属CD」ほか
- 自主制作音源で、音声商品を発行した。
  - ・宮部みゆき傑作選「聴いて味わう時代小説 第三集」(CD 6枚組)
  - ・「藤沢周平 隠し剣 を聴く」(CD 6枚組)
- 「ラジオ深夜便」に、『深夜便のうた』8曲を制作、納品し、全曲CD化した。
- NHK音源をレコード会社等へ提供した。
  - ・「NHK旅の音楽集」、「スターデジオAIR」プリインストールコンテンツ、吉永小百合「歌手デビュー55周年記念ベスト&NHK貴重映像DVD」CDほか

### (3) コンテンツ制作・販売業務

- NHK放送博物館の展示コンテンツを追加制作(前・後期)した。
- 「新・港区立郷土資料館」「白石城歴史探訪ミュージアム」等の展示コンテンツ制作を受託し、納品した。
- 「ラジオ深夜便 誕生日の花」「NHKワールド」「気象予報士」「NHKラジオ体操・テレビ体操」などのカレンダーや「ラジオ深夜便 日記手帳」等を発行した。
- 販売業務では、通信販売(DM、「NHKサービスセンター ネットショップ」)、直販(スタジオショップ)および販社への卸販にて、発行商品を販売した。通信販売では、カレンダー・CDを中心としたDM発送を10月に実施した。「ステラ」「ラジオ深夜便」への広告掲載、および各誌定期購読者にチラシを同梱して商品告知をし、販売を行った。
- 音声配信事業については、独自配信サイト「NHKサービスセンターダウンロードストア」で、語学コンテンツ(21講座)・落語のほか、体操、藤沢周平作品の朗読等を販売した。

### (4) NHK番組記念品業務

- 「NHKスタジオパーク」「NHKホール」「NHK放送博物館」やNHK各放送局の来館者サービスとして番組記念品を販売した。
- 「NHKのど自慢」の来場者向けに、「のど自慢～コイン型チョコレート」を開発した。

- 「おかあさんといっしょ」では新キャラクターが定着し、春・秋のファミリーコンサートや地方の公開番組「おかあさんといっしょ宅配便～ガラピコぷー小劇場」において、新商品を販売した。
- 各放送局からの依頼で「どーもくん」の着ぐるみを制作。取り扱いが容易な「エアー着ぐるみ」型を初めて制作した。
- 「NHKネットクラブ」会員向けインセンティブ商品を年間通じて提供した。

## 視聴者サービス業務

### 9 NHKスタジオパーク業務

- 入館者数

	入館者合計	有料入館者		無料入館者
		個人	団体	
平成29年度	594,016人 (99.8%)	97,385人 (71.4%)	13,448人 (82.4%)	483,183人 (109.2%)
平成28年度	595,022人	136,384人	16,321人	442,317人

・（ ）内の数値は前年比 ・無料入館者は「無料公開デー」入館者を含む

- 平成29年度は、450スタジオで22年間続いた公開番組「スタジオパークからこんにちは」に代わり、「4時も！ シブ5時」が始まった。オープニングで、来館者と“どーもくん”がガラス越しに紹介される、スタジオパークならではの参加型番組であったが、放送は1年間で終わった。
- 入館者数は、『スタパ祭り』や正月・クリスマスを中心に、年間を通して若いファミリー向けのイベントを展開した結果、7月と11月に、平成23年のリニューアル以降、月間では最高の人数となった。

晴れた日が4日間しかなかった10月や寒波・大雪の2月など、天気の影響を大きく受ける月もあったが、“うたコン”などNHKホールでの公開番組等の入場券を“スタパ招待券”扱いにするなど入館者の確保に努め、年間入館者数は、約60万人とリニューアル後3番目に多い数字となった。

- 団体数は、NHKホールでの“うたコン”の団体観覧が平成29年1月から中止された影響等で減少傾向にある。このため、「はとバス」に定期コースの増を働きかけたほか、添乗員・ガイドさん向けの研修を積極的に実施するなどして、旅行会社との関係を深めている。

また、参加校が減少傾向にある小学校5年生向けの「ジュニア学習会」は、

昨年度からアンケートを採ったり、周知文の発送を早めたりしたことにより、減少に歯止めが掛かった。

	団体件数	団体入館者数
平成29年度	2,383件 (95.6%)	107,453人 (97.8%)
平成28年度	2,493件	109,894人

\*「ジュニア学習会」117件8,489人  
(28年度; 116件8,347人)

- スタジオカフェでは「おんな城主 直虎」関連の「大河御膳」、「西郷どん」の「大河どん」が評判を呼び、朝ドラ「ひよっこ」「わろてんか」では昔懐かしい「オムライス」や「カレーうどん」等の企画メニューを提供した。  
また車いすでも安心して使える「人に優しい施設」としてPRした結果、小さいお子様から学校関係者・障害のある方のお問い合わせや利用が増え、団体の担当者から高い評価を受けた。

## 10 「NHKホール」「NHKふれあいホール」業務

### (1) NHKホール業務

- 平成29年度は57万9,313人の入場者(前年度比▲4万3,435人)があり、NHK公開番組や各種コンサートを観覧・鑑賞した。
- NHK使用は147日で平成28年度より1日少なく定例の公開番組が5日減ったが、東京JAZZが今年度からNHKホール開催となり4日増、NHK音楽祭が昨年度比5日増など、NHKの有料催し物の使用日数が10日増となった。NHK交響楽団は50日と変わらなかった。
- 平成29年度前半に音声副調のリニューアル工事が6か月(工事日数122日間)に及び、8月には夏期集中工事を22日間実施したため、外部利用に影響し、85日で平成28年度比10日減となった。そのため放送法第20条3項に基づく外部利用料収入は、2億2,191万円(税抜き)で平成28年度比3,800万円の減収だった。
- 設備整備関係では、舞台照明をコントロールする調光装置、ホールのセキュリティを確保する監視カメラ15台と舞台運営の安全を確認する監視カメラ2台の更新を行った。舞台大迫りに落下防止の手摺を整備し作業の安全性が向上。客席とロビーでは天井の耐震対策3年目の工事を行い、2階ロビー分が完了。また、ロビーのサインを視認性の良いLEDパネルに更新した。

NHK使用	147日 (148日)	外部利用	85日 (95日)
NHK交響楽団	50日 (50日)	整備保守	83日 (72日)

( )は平成28年度

## (2) NHKふれあいホール業務

- NHKふれあいホール年間稼働日は234日であり、平成28年度実績の276日より42日の減少となった。番組観覧・イベント参加者等の年間入場者数も4万844人となり、平成28年度比1,411人の減少となった。
- ピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピック開催期間中はギャラリースペースが副調整室として利用され、また展示企画も少なかったため、ギャラリー観覧者は大きく下回った。

ホール：	40,844人 (▲1,411人)
ギャラリー：	27,364人 (▲5,606人)

### 1.1 NHK放送博物館業務

- 「放送の過去・現在・未来」のコンセプトに基づき、常設展示で「国民歌謡」と「のど自慢」の特集コーナーを新設し、NHKが戦前から音楽の普及、振興に深く関わってきた歴史を明記した。
- 企画展は、放送文化研究所や報道局、ドラマ部等と連携して「東日本大震災伝え続けるために」、「ヒロインたちの肖像 連続テレビ小説ポスター展」、「減点パパ・減点ファミリー」を開催した。
- イベントは、大河ドラマ「西郷どん」の制作CPによる講演会、平成28年度放送文化賞受賞の昆虫学者による文化講演会、講談や薩摩琵琶等の伝統芸能、中高生向けの放送講座等、多種多彩で幅広い年代に向けた催しを実施した。
- NHKのラジオやネットクラブ、ステラなどの広報ツールを積極的に活用し、企画展やイベント開催、それに博物館自体のPRを行い、入館者数は前年度に比べ10.13%、1万1,500人増の11万8,963人となった。

## 東京オリンピック・パラリンピックおよび4K・8K関連業務

### 1.2 東京オリンピック・パラリンピックおよび4K・8K関連業務

- 「4K・8Kスーパーハイビジョン」「東京2020・1000日前ウィーク」の各種キャンペーン型プロモーションを展開した。
- 新たに「NHK TOKYO 2020わくわく広場」(パラリンピック競技をメインにした参加型ツール)を制作し、全国12会場を巡回した。合計20,824人の参加者があり、NHKのブランディングと東京オリンピック・パラリンピックの機運を高めた。
- 8Kスーパーハイビジョンの広報・普及イベントは、大相撲や12月1日



の試験放送開始、NHK杯国際フィギュアスケート競技大会、紅白歌合戦、ピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピック等の機会を捉えて、NHKふれあいホール、両国国技館、パナソニックセンター東京、i T S C O M S T U D I O & H A L L 二子玉川ライズ、パークタワーホール、ベルサール秋葉原、東京ミッドタウンアトリウム等を会場に、パブリックビューイングを24回実施し、136,435人の観覧者を得た。

- スタジオパークでは、350スタジオを8Kのある暮らしをイメージした「8Kリビングシアター」に改修した。
- NHKふれあいホールでは、「ピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピック」を初め、「大相撲」や「NHK杯フィギュア」「紅白歌合戦」などを43日間で計99回、スーパーハイビジョンを上映公開し、実施日数・上映回数とも平成28年度の38日間、計66回上映を大きく上回った。
- NHK放送博物館では、東京オリンピック1000日前関連のアナウンサートークショーを実施したほか、館内の8Kシアターで放送する番組を事前にHPやメール等でPRする「8Kビューイング」をほぼ毎週開催し、8Kの周知と広報に努めた。

## 視聴者の意向吸収・理解促進業務

### 1.3 視聴者の意向吸収・理解促進業務

- ふれあいセンター（放送）、ハートプラザに寄せられた電話・メール・手紙等の受付件数は、99万2,000件で平成28年度比3万6,000件減となった。

電話の着座率は96.4%、応答率は93.9%。電話の件数は78万9,000件で、平成28年度より2万6,000件減。メールの件数（英語含む）は17万8,000件で、平成28年度より6,000件増となった。

内容別では、受信料関係が3万6,000件で平成28年度より6,000件増。

- 総合・午後の改定を行った平成29年度編成、7月の東京都議選と9月の衆議院選などに的確に対応した。2・3月のピョンチャン冬季オリンピック・パラリンピックでは、NHKオンラインの充実などもあり、競技や放送開始時間等を視聴者へ的確に情報提供が出来た。
- メールでの問い合わせができない高齢者など「デジタル弱者」に向けて、4月から平日（10－17時）にデジタル関連案件の電話対応（年間470

件)を実施した。1件ずつ丁寧に対応した結果、感謝の声が多く寄せられた。

- 平成26年度から開始した電話対応業務の地域放送局との業務連携については、年間の転送件数1万2,738件、1日平均52件となった。

また、危機管理案件の電話対応の地域放送局応援を平成29年度から業務として位置付けた。平成30年4月に2局でそれぞれ2回実施することが決まっている。(山形局元記者の公判関連)

- ハートプラザで中・高生を対象に対応した訪問学習は279件、1,823人。接遇・案内(特別見学)は43件、475人であった。
- 契約締結・受信料収納手続きの業務委託先に関する苦情については、ふれあいセンター(営業)の平日夜間の受付時間短縮に伴い、平成27年12月から平日夜間(20-22時)の営業への電話転送を開始し順調に推移している。苦情が多い土・日・祝日夜間(20-22時)の電話転送が平成29年10月21日から開始され、「Nスペ」などの放送対応に集中できるようになった。

## 社会奉仕業務

- 月刊誌「ラジオ深夜便」を全国の老人福祉施設に寄贈した。送付部数の合計は86,886部。
- (社福)日本点字図書館による点字週刊誌「NHKウイークリーガイド」の発行経費の一部を助成したほか、点字編集資料として「ステラ」と「NHKウイークリーガイド」を提供した。
- 「NHK杯全国中学校放送コンテスト」の主催者に、また「NHK杯全国高校放送コンテスト」の共催者になるとともに、経費の一部を負担した。
- 「放送教育研究会全国大会」「放送教育研究会地方大会」の経費の一部を負担した。
- 「放送教育・ICT教育のあり方に関する調査・研究」として、その成果を冊子『教員のための情報教育FAQ(想定問答集)』にまとめ放送教育の関係者に配布するとともに、HP「放送教育ネットワーク」に掲載した。
- NHKハートプロジェクトに関連して、「介護百人一首」の作品集の制作経費を財団が負担するとともに、作品集を応募者や一般の希望者へ無償で頒布した。「介護百人一首」の制作部数は19,000部。また、無償頒布部数は16,679部(平成29年度末)。

なお、社会奉仕業務は、一般財団法人への移行における公益目的支出計画(年間4,750万円)の実施事業である。

## コンプライアンス、働き方改革

### 1 リスクマネジメント、コンプライアンスへの取り組み

- リスクマネジメントとコンプライアンス推進活動については、理事長を委員長、常勤役員を委員として構成するリスクマネジメント委員会（平成29年度は、11回開催）において、年次活動計画の「工程表」を策定し、四半期毎に進捗状況の検証を行うとともに、当初計画の変更・追加に合わせて次の四半期の「工程表」を更新し、着実な実施を図った。
- 「改正個人情報保護法」の全面施行（5月30日）を受けて、個人情報保護関連規程の見直し、「リスクマネジメントに関する勉強会」での改正法のポイント解説、「私たちの約束グループ討議」（「コンプライアンス推進強化月間」）での個人情報の収集および利用方法の再確認等の活動を通して、財団が保有する個人情報データベースの管理水準の改善に取り組んだ。  
これに合わせて、重要ファイルへのパスワード設定、パソコンのセキュリティワイヤーロックおよび外部記憶媒体管理の徹底等、総合的な情報セキュリティ対策の推進に力点を置いた活動を行った。また、情報セキュリティ対策では、ステラ編集部が入稿オンラインシステムを導入し、USBメモリーによる原稿の受け渡しを全廃した。
- 個人情報漏えいの発生可能性や発生時の影響度を継続的に把握し、その低減を図ることを目的に、NHKグループ全体の取り組みとして新たに開始された、「自主点検シート」による「個人情報データベース」の点検活動に対応した。

### 2 内部監査の実施

- 平成29年度は、広報プロモーション、視聴者サービス、管理部門の5部署と札幌、仙台の2支局を対象に監査を実施した。また個人情報保護監査は、「改正個人情報保護法」に対応した個人情報調査の結果等を踏まえて実施した。
- 平成29年11月のNHK内部監査室の現地調査で、パソコンや外部記憶媒体の管理など情報セキュリティ関係の不備が複数指摘された。これを受けて平成30年度は情報セキュリティの監査を重点の一つとして取り組む。
- 全社的な内部統制について、「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」という6つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価した。また、業務上重要なリスクを抽出した上で、必要な対応（内部統制）が実施されていることを評価した。評価の結果、平成30年3月31日時点における当財団の内部統制は、概ね有効であると判断した。

### 3 働き方改革

- 平成29年度を財団の「働き方改革」元年と位置付け、長時間労働による健康障害防止と効率的でかつ多様な働き方ができる職場づくりをめざし、4月には働き方改革推進委員会（委員長：理事長）を設置した。委員会からの提言の第1弾として、6月に個人でできる働き方改革の取り組み事例を紹介し、第2弾として、8月に時間外労働に関するルールへの順守や長期休暇の取得促進など財団全体としての取り組みを周知した。平成30年2月には業務の効率化を目的に各組織単位で行う業務の見直し（棚卸し）の計画（案）をまとめるとともに、平成30年4月からの運用開始に向けて在宅勤務の試行も実施した。

## その他

### 1 評議員・評議員会

#### ① 評議員 (29年6月22日現在)

氏名	就任年月日	現職等
行天豊雄	29. 6. 22	元(公財)国際通貨研究所理事長
遠藤利男	29. 6. 22	元(株)NHKエンタープライズ21代表取締役社長
坪井節子	29. 6. 22	(社福)カリヨン子どもセンター理事長、弁護士
樺山紘一	29. 6. 22	印刷博物館館長
山西潤一	27. 4. 1	富山大学名誉教授
森永公紀	29. 6. 22	(株)NHK出版代表取締役社長
松原洋一	28. 6. 29	NHK理事
中田裕之	29. 6. 22	NHK理事
正籬 聡	29. 6. 22	NHK広報局長

#### ② 評議員の新規就任・退任

年月日	就任・退任	氏名
29. 6. 22	重 任	行天豊雄
〃	〃	遠藤利男
〃	〃	坪井節子
〃	〃	樺山紘一
〃	就 任	森永公紀
〃	〃	中田裕之
〃	〃	正籬 聡
〃	退 任	小泉公二
〃	〃	今井 純
〃	〃	松坂千尋

#### ③ 評議員会

開催回	開催月日	議 題
第169回	29. 6. 22	① 平成28年度事業報告および収支決算 ② 評議員の選任 ③ 役員を選任
第170回	30. 3. 15	① 平成30年度事業計画および収支予算

## 2 理事・監事・理事会

### ① 理事および監事（29年6月22日現在）

役職名	氏名	就任年月日	現職等
理事長	米 本 信	29. 6. 22	
常務理事	高 井 俊 和	28. 6. 29	
常務理事	金 山 伸 二	29. 6. 22	
理事	白 土 善 博	29. 6. 22	
理事	星 野 克 也	29. 6. 22	
理事(非常勤)	五十嵐耕一	29. 6. 22	(公財)岡崎嘉平太国際奨学財団理事長
理事(非常勤)	石川 昌 平	29. 6. 22	(有)石川環境システム研究所代表取締役
理事(非常勤)	黒羽 房 子	29. 6. 22	元(株)日本経済新聞社編集委員
理事(非常勤)	山 口 彭 子	29. 6. 22	武蔵野市教育委員会委員
理事(非常勤)	野 呂 従 道	29. 6. 22	NHK広報局専任部長
監事(非常勤)	手 島 康 子	29. 6. 22	NHK関連事業局副部長、弁護士
監事(非常勤)	山 川 信 行	29. 6. 22	(株)NHKメディアテクノロジー監査役

### ② 理事、監事の新規就任・退任

年月日	役職	就任・退任	氏 名
29. 6. 22	理事	重 任	米 本 信
〃	〃	〃	金 山 伸 二
〃	〃	就 任	白 土 善 博
〃	〃	〃	星 野 克 也
〃	〃	〃	野 呂 従 道
〃	〃	重 任	五十嵐耕一
〃	〃	〃	石川 昌 平
〃	〃	〃	黒羽 房 子
〃	〃	〃	山 口 彭 子
〃	〃	退 任	永 田 洋 一
〃	〃	〃	佐々木貞夫
〃	〃	〃	三 谷 行 夫
〃	監事	重 任	手 島 康 子
〃	〃	就 任	山 川 信 行

③ 理事会

開催回	開催月日	議 題
第438回	29. 6. 8	① 平成28年度事業報告および収支決算 ② 公益目的支出計画実施報告書 ③ 定時評議員会の開催 ④ 職務執行の状況
第439回	29. 6.22	① 業務執行理事の選定 ② 役付理事の選定
第440回	30. 3. 8	① 平成30年度事業計画および収支予算 ② 臨時評議員会の開催 ③ 職務執行の状況 ④ 平成29年度内部監査実施結果報告ほか

④ 理事および監事に支払った報酬の額

対象者	人数	報酬の額
理事	10人	79百万円
監事	2人	1百万円

(注) 非常勤理事については、理事会に出席の都度、定額を支給。  
なお、NHKの非常勤理事、監事は無報酬。

3 29年度末従業員数

238人

〔 東京：199人、大阪：13人、名古屋：6人、広島：5人、  
福岡：4人、仙台：4人、札幌：5人、松山：2人 〕

事業報告の附属明細書については、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成していない。